

## チュートリアル課題 スカートのきつくなった

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00033202">https://doi.org/10.20780/00033202</a>

2018年度 Segment. 5

課 題 No. 6

課題名：スカートがきつくなった

課題作成者：産婦人科学

熊切 順



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

51歳になった真理子さんは、最近になってスカートをはくと、きつく感じるようになりました。  
「体重は増えてないし、お昼なんかおにぎり2つ食べただけで満腹なのに、どうしたのかしら？」

1年前に会社で受けた健康診断でも異常はありませんでしたが、  
最近、生理の間隔も短くなってきました。

職場の同僚に話すと、「更年期になったらメタボに気をつけなくちゃ」  
と言われて、年のせいで仕方ないかなと思いました。

しかし、なにか腑に落ちないので、真理子さんは近くのクリニックに行って相談してみることにしました。

シート2

クリニックでは、お腹を診察された後に、医師から「お腹に水が貯まっています」と言われました。

真理子さんは突然のことで気が動転しましたが、紹介された大学病院で精密検査を受けることにしました。

大学病院では血液検査を行ない、いくつかの検査を予約してくれました。  
また、真理子さんは指示どおりに、いくつかの科を回って検査も受けました。

シート3

検査の結果について、主治医から真理子さんと娘の正恵さんに診断と今後の治療について説明がありました。夫は単身赴任で立ち会うことができませんでした。

真理子さんは、だいぶ落ち着いてはきたものの多くの不安と心配が脳裏をよぎりました。

「なんでこんな大事な時にお父さんがいないの！正恵はまだ大学生なのに今後治療代が払えるかしら？」

「毎年健診を受けていたのに、こんなことになるなんて！」

「人工肛門になったり抗がん剤を受けることになったりしたら仕事はできないかも．．．」

「子宮も卵巣もなくなったら私、女でなくなるのかしら．．．」

シート4

術後診断は卵巣漿液性腺癌で臨床進行期はIc(a)期でした。  
術後経過は良好で、ほどなくして抗癌剤の治療が始まり退院となりました。

抗癌剤を開始してから髪が抜け始め、真理子さんは手や足の先にしびれを感じるようになりました。

シート5

抗癌剤の治療を開始してから真理子さんは、首に汗をかくようになり、カッターとなってしかたがありません。そのうえ頭痛や肩こり、動悸やめまいなど、身体のあらゆる症状が気になって、せっかく仕事に復帰したのに、忘れっぽくもなり、仕事がおっくうになってきました。

家庭では、お父さんは単身赴任中のうえに息子の浩司だけでなく、大学生の正恵も一人暮らしを始めることになりました。

子育てが一段落して、ゆとりある生活を楽しみにしていたのに、真理子さんは寂しくなってきた、次第に気が滅入ってきました。

自分からいろいろな科を受診して検査をしたのですが、どこでも「特に大きな異常はありません」と言われました。